



三陸ジオパーク Sanriku Geopark ジオサイト 15

北緯40度東端の地球村ふだい — Fudai Suimon

普代水門

●ジオポイント 太田名部防潮堤

「二度あったことは、三度あってはならない」

和村幸得元村長は、戦後の民選で村長に初当選し、10期40年という長きにわたり普代村のトップとして村の発展に尽力しました。昭和8年の津波を経験した元村長は、明治29年の津波で記録された15.2メートルの高さにこだわりました。財源や土地の活用に関からも村民からも反対の声が上がりましたが、「二度あったことは、三度あってはならない」と反対の声を説得し、高さ15.5メートルの普代水門と太田名部防潮堤を実現させました。2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震では、津波による浸水を最低限に食い止め、村内の人的被害を死者0、行方不明者1に抑え、「奇跡の水門」と呼ばれ注目を集めました。ただし実際には到達した津波は高さ約20mで水門を越えており、県道にかかる水門の陸甲（扉）が余震で緊急停止し、間一髪手動で閉めた経緯もあり、より素早く高台に避難することこそが重要であることを忘れてはなりません。



和村幸得元村長



津波映像

3月11日地震の直前
中心半鐘の水門の監視
カメラ映像(動画)



普代水門
(昭和29年完成)

- 高さ15.5メートル
- 総延長205メートル
- 1972年(昭和47年)竣工
- 施工費約1億9千万円



津波の浸水

- 明治三陸地震津波
- 東日本大震災津波

太田名部防潮堤
(昭和42年完成)

- 高さ15.5メートル
- 総延長155メートル
- 1967年(昭和42年)竣工
- 施工費5,837万円